

ITIL® 4 Strategic Leader

デジタルおよび IT ストラテジー (DITS) 受験者向けのシラバス

[AXELOS.com](https://www.axelos.com)

目次

1	はじめに	3
2	ITIL 4 デジタルおよび IT ストラテジーのシラバス	4
3	ケース・スタディ・アセスメント	8
3.1	ケース・スタディの概要	8
3.2	ケース・スタディのシラバス	9
4	MCQ アセスメント	11
4.1	試験の概要	11
4.2	MCQ(多肢選択式問題)試験のシラバス	12
5	ITIL® 4 デジタルおよび IT ストラテジー試験の構成	16
5.1	試験の管理	16
5.2	設問のタイプ	16
5.3	採点	17
5.4	ブルームのレベル別の比重	17
5.5	学習成果別の比重	17
6	認定資格	18

1 はじめに

本書の目的は、以下について説明することです。

- ITIL 4 デジタルおよび IT ストラテジー(DITS) 認定資格の学習成果と、それぞれの学習成果で受験者に求められるアセスメント基準(出版書籍『ITIL 4 デジタルおよび IT ストラテジー』、『ITIL 4 プラクティス・ガイダンス』を参照)
- 試験の構成(使用される設問のタイプ、試験時間および管理上の留意事項)
- 各学習成果、アセスメント基準および「ブルームのレベル」(改訂版のブルームの分類法に則して、設問やタスクの回答に求められる認知処理のレベル)別の比重(設問数)

本書の対象読者は以下のとおりです。

デジタルおよび IT ストラテジー認定資格の受験者。

このモジュールでは、ビジネスの成功を可能にするために、最適なデジタル戦略を立てることの重要性とその際の課題に焦点を当てます。また、デジタル戦略をどのように IT 戦略と統合して、組織の大きな目標達成につなげられるか、またそれをどのように行うべきかについても着目します。サービス・マネジメントに関する課題に対処し、現代的な技術の可能性を利用してデジタル技術を最大限に活用するために、系統立てられた柔軟なアプローチを提供して、組織のデジタル・トランスフォーメーションを支援します。このモジュールでは、そのための ITIL の枠組みの利用法を見ていきます。こうすることで、ITIL の一連の書籍に新たな視点をもたらし、企業やビジネス・リーダーたちの間で ITIL の概念に関する議論を戦略的レベルに高められます。

2 ITIL 4 デジタルおよび IT ストラテジーのシラバス

以下の表に、ITIL 4 デジタルおよび IT ストラテジー認定資格の学習成果と、それらの学習成果に関して学習コースに参加した受験者の達成度を評価するために使用されるアセスメント基準を示します。

この資格付与に関するアセスメントには、実践的なケース・スタディ課題と MCQ(多肢選択式問題)試験の 2 つの形式があります。アセスメントの異なる形式の詳細は、この文書のセクション 3 と 4 を参照してください。

学習成果	アセスメント基準	ブルームのレベル
1. デジタルおよび IT の戦略に関する決定と対応において、ITIL の従うべき原則を活用できる	1.1 ITIL の従うべき原則を、デジタルおよび IT の戦略のすべての側面に結びつける (2.10.4) <ul style="list-style-type: none"> a) 価値に着目する b) 現状からはじめる c) フィードバックをもとに反復して進化する d) 協働し、可視性を高める e) 包括的に考え、取り組む f) シンプルにし、実践的にする g) 最適化し、自動化する 	BL4
2. デジタル・ディスラプションに対応するために、デジタル戦略を強化する方法を理解している	2.1 次の概念を理解している <ul style="list-style-type: none"> a) デジタル技術(2.1、2.1.1、2.1.2、2.1.3) b) デジタル・ビジネス(2.3) c) デジタル組織(2.2) d) デジタル化(2.4) e) デジタル・トランスフォーメーション(2.5) 	BL2
	2.2 次の概念を理解している <ul style="list-style-type: none"> a) ビジネス戦略とビジネス・モデル(2.7.1、2.8.1) b) デジタルおよび IT の戦略(2.7.2、2.7.3) c) 製品(2.6) d) サービス(2.6) 	BL2
	2.3 デジタルおよび IT の戦略と ITIL SVS の構成要素(2.10.4を除く2.10と、サブセクションを含む戦略管理プラクティス 2.1 と 2.4 のすべて)の関係について、説明方法を把握している	BL3

学習成果	アセスメント基準	ブルームのレベル
3. デジタルおよび IT の戦略の概念、サービスバリュー・システム、サービスバリュー・チェーンの間の関係と、それらを活用してバリューを生み出す方法を理解している	3.1 次の観点から環境分析を説明できる a) 外部分析: PESTLE(4.1、4.1.1、4.1.3、4.1.4) b) 内部分析: サービス・マネジメントの 4 つの側面(4.1、4.1.2、4.1.3、4.1.4)	BL3
4. デジタル技術が引き起こす環境ディスラプションの中で持続するための、組織によるデジタルおよび IT の戦略の活用方法を理解している	4.1 組織の持続性は、アジリティ(俊敏性)や対障害弾力性があり、無駄がなく、どの程度継続的かつ共創的であるかに左右されることを示せる(8.1.2、8.1.2.2)	BL3
	4.2 VUCA 要素を分析し、デジタルおよび IT の戦略で対処する方法を把握している(サブセクションを含む 8.1)	BL4
	4.3 次の 3 つのデジタル・ディスラプションレベルについて説明し、比較できる a) エコシステム(3.1、3.1.1) b) 産業/市場(3.1、3.1.2、3.1.3) c) 組織(3.1、3.1.4)	BL3
	4.4 特定の市場や産業で、組織が次の要素についてどのような影響を受けているかを示せる a) 顧客/市場の関連性の強度(3.2、3.2.1、3.2.4) b) オペレーショナル・エクセレンスの達成(3.2、3.2.2、3.2.4) c) 内部および外部の焦点(3.2、3.2.3、3.2.4) d) バランスの取れたアプローチ(3.2、3.2.4)	BL3
	4.5 デジタル・ポジショニング・ツールを使ってデジタル組織の適切なポジションを決定できる(サブセクションを含む 3.3)	BL4

学習成果	アセスメント基準	ブルームのレベル
5. 顧客/市場の関連性を強め、オペレーショナル・エクセレンスを達成するために、デジタルと情報の技術によって可能になった戦略的アプローチを理解している	5.1 顧客/市場の関連性を強めるために、次のアプローチの適用方法を把握している <ul style="list-style-type: none"> a) カスタマ・ジャーニー(5.2.1、5.2.1.1) b) オムニチャネル配信とサポート(5.2.1、5.2.1.2) c) 状況に応じた提供とサポート(5.2.1、5.2.1.3) d) 顧客分析(5.2.1、5.2.1.4) e) 顧客フィードバックと 360°アプローチ(5.2.1、5.2.1.5、5.2.1.6) 	BL3
	5.2 サービス・マネジメントの 4 つの側面でオペレーショナル・エクセレンスを達成する方法を把握している(サブセクションを含む 5.2.2)	BL3
	5.3 次の観点からデジタルおよび IT の戦略の財務面を理解している <ul style="list-style-type: none"> a) 財務方針(サブセクションを含む 5.1.3、5.1.3.3、ポートフォリオ管理プラクティス 2.1 と 2.4、サービス財務管理プラクティス 2.1 と 2.4 のすべて) b) ポートフォリオの最適化(サブセクションを含む 5.1.3、5.3.1、ポートフォリオ管理プラクティス 2.1 と 2.4、サービス財務管理プラクティス 2.1 と 2.4 のすべて) c) プロジェクト、製品、サービスのための資金調達(サブセクションを含む 5.1.3、5.1.3.1、ポートフォリオ管理プラクティス 2.1 と 2.4、サービス財務管理プラクティス 2.1 と 2.4 のすべて) d) イノベーションと運用のコスト・バランス(サブセクションを含む 5.1.3、5.1.3.2、ポートフォリオ管理プラクティス 2.1 と 2.4、サービス財務管理プラクティス 2.1 と 2.4 のすべて) e) 課金モデル(サブセクションを含む 5.1.3、5.1.3.4、ポートフォリオ管理プラクティス 2.1 と 2.4、サービス財務管理プラクティス 2.1 と 2.4 のすべて) 	BL3
	5.4 デジタル組織のための戦略的アプローチを評価できる(サブセクションを含む 5.2)	BL4

学習成果	アセスメント基準	ブルームのレベル
6. デジタルおよび IT の戦略のリスクと機会を理解している	6.1 デジタル組織を考慮して、リスク管理の概念を説明できる(サブセクションを含む 11.1、11.2、11.3 とリスク管理プラクティス 2.1、2.4 のすべて)	BL2
	6.2 デジタルおよび IT の戦略を考慮して、次の方法を説明できる a) リスクの特定(サブセクションを含む 11.5) b) リスクの評価(サブセクションを含む 11.7、11.8 のすべて)	BL2
	6.3 リスク状況の概念について説明方法を把握しており、機会とリスクの間で許容できるバランスを決める方法を示せる(サブセクションを含む 11.10、11.11、11.12 のすべて)	BL3
	6.4 主要要素と技術を含めて、イノベーションの概念を説明できる(サブセクションを含む 10.1、10.2、10.3、10.5、10.6、10.10 のすべて)	BL2
	6.5 イノベーションのカルチャを発展させて保持するために、技術を適用する方法を把握している(サブセクションを含む 10.5、10.8、10.9 のすべて)	BL3
7. デジタルおよび IT の戦略を定義し、提唱するための手順や技術を理解している	7.1 組織の現状と理想的なポジションの間のずれを分析するために、デジタル準備状況アセスメントの活用方法を把握している(サブセクションを含む 4.3)	BL3
	7.2 ビジョンと戦略を定義し、伝える方法を説明できる(サブセクションを含む 3.4、5.1.1、5.1.2 のすべて)	BL2
	7.3 デジタルおよび IT の戦略を提唱するために、ビジネス・ケースの使い方を把握している(サブセクションを含む 5.3.2、5.3.3、5.3.4 のすべて)	BL3
8. デジタルおよび IT の戦略の導入方法を理解している	8.1 デジタル組織の運用モデルを定義する方法を把握している(サブセクションを含む 2.9、12.2、アーキテクチャ管理プラクティス 2.1 と 2.4、要員およびタレント管理プラクティス 2.1 と 2.4 のすべて)	BL3
	8.2 デジタル組織でリーダーに求められる主要なスキルを説明できる(6.2.1 を除く 6.2、サブセクションを含む 9)	BL2
	8.3 次のアプローチを戦略の調整と導入に適用できる a) 大規模なトランスフォーメーション(6.1、6.2.1、6.1.1) b) 段階的なトランスフォーメーション(6.1、6.2.1、6.1.2) c) 合併と買収(6.1、6.2.1、6.1.3) d) 個々の変更(6.1、6.2.1、6.1.4)	BL4
	8.4 POM(並列運用モデル)へのアプローチを説明できる(サブセクションを含む 8.2)	BL2
	8.5 デジタルおよび IT の戦略の成功を評価する方法について説明できる(サブセクションを含む 7.1、7.2、7.3、7.4 のすべて、サブセクションを含む測定および報告 2.1 と 2.4 のすべて)	BL2
	8.6 デジタル・トランスフォーメーション・プログラムでよくある活動を説明できる(サブセクションを含む 6.3.4)	BL2

3 ケース・スタディ・アセスメント

ITIL 4 リーダのデジタルおよび IT ストラテジーのコースで取り組む実践的な課題のために、ケース・スタディが作成されました。

3 社の架空企業について述べていますが、実際の企業と類似点があった場合、意図したものではありません。

コース参加者は小さなグループに分かれてこの実践的な課題に取り組みます。自分のペースで学習できるオンライン・コースの学習者は、個人で取り組めます。

課題は、コースのトレーナーが評価します。

3.1 ケース・スタディの概要

持ち込み可能な資料	制限なし	これは「持ち込み可」のアセスメントです。課題に取り組む間、出版書籍『ITIL 4: デジタルおよび IT ストラテジー』や『ITIL プラクティス・ガイダンス』文書など、どのような資料を参照しても構いません。
試験時間	不定	時間: <ul style="list-style-type: none"> グループワーク形式では、60 分の課題が 3 つと 90 分の課題が 1 つ出題されます。 個人形式では、60 分ずつの筆記課題が 4 つ出題されます。
配点	40 点	課題数: 4 アセスメント基準の数: 5 点数: 各アセスメント基準は 8 点です。40 点満点で、 点数がマイナスになることはありません。
合格点	30 点	75% 以上 (30 点以上)
思考レベル	ブルームのレベル 4	ブルーム 4 の質問では、受験者が与えられた情報を分析し、一連の対応が効果的で適切であるかどうかを判断する必要があります。
設問のタイプ	課題	4 つの課題はすべて、サービス関係に従事する 3 つの企業のケース・スタディに基づいています。どの課題でも 2 つのアセスメント基準 (AC) に対応します。すべての課題で着目されている専用の AC として、AC 1.1「ITIL の従うべき原則を、デジタルおよび IT の戦略のすべての側面に結びつける」があります。

3.2 ケース・スタディのシラバス

学習成果とケース・スタディに関するアセスメント基準を以下の表に示します。

学習成果	アセスメント基準	ブルームのレベル
1. デジタルおよび IT の戦略に関する決定と対応において、ITIL の従うべき原則を活用できる	1.1 ITIL の従うべき原則を、デジタルおよび IT の戦略のすべての側面に結びつける (2.10.4) a) 価値に着目する b) 現状からはじめる c) フィードバックをもとに反復して進化する d) 協働し、可視性を高める e) 包括的に考え、取り組む f) シンプルにし、実践的にする g) 最適化し、自動化する	BL4
4. デジタル技術が引き起こす環境ディスラプションの中で存続するための、組織によるデジタルおよび IT の戦略の活用方法を理解している	4.2 VUCA 要素を分析し、デジタルおよび IT の戦略で対処する方法を把握している (サブセクションを含む 8.1)	BL4
	4.5 デジタル・ポジショニング・ツールを使ってデジタル組織の適切なポジションを決定できる (サブセクションを含む 3.3)	BL4
5. 顧客/市場の関連性を強め、オペレーショナル・エクセレンスを達成するために、デジタルと情報の技術によって可能になった戦略的アプローチを理解している	5.4 デジタル組織のための戦略的アプローチを評価できる (サブセクションを含む 5.2)	BL4
8. デジタルおよび IT の戦略の導入方法を理解している	8.3 次のアプローチを戦略の調整と導入に適用できる a) 大規模なトランスフォーメーション (6.1、6.2.1、6.1.1) b) 段階的なトランスフォーメーション (6.1、6.2.1、6.1.2) c) 合併と買収 (6.1、6.2.1、6.1.3) d) 個々の変更 (6.1、6.2.1、6.1.4)	BL4

以下の表に示す 5 つのシラバスのアセスメント基準を取り上げた 4 つの課題が用意されています。

アセスメント基準 1.1 は「ITIL の従うべき原則を、デジタルおよび IT の戦略のすべての側面に結びつける」ですが、その内容は 4 つすべての課題に含まれています。

アセスメント基準	課題
1.1 ITIL の従うべき原則を、デジタルおよび IT の戦略のすべての側面に結びつける	すべて
4.5 デジタル・ポジショニング・ツールを使ってデジタル組織の適切なポジションを決定できる	1
5.4 デジタル組織のための戦略的アプローチを適用できる	2
8.3 アプローチを戦略の調整と導入に適用できる	3
4.2 VUCA 環境の管理にデジタルおよび IT の戦略を適用できる	4

4 MCQ アセスメント

MCQ 試験は 30 の設問で構成されており、各設問に 4 つの選択肢が提示されます。4 つ選択肢のうち 1 つが正解で、残り 3 つは不正解です。

4.1 試験の概要

持ち込み可能な資料	なし	この試験は「持ち込み不可」です。『ITIL 4: デジタルおよび IT ストラテジー』と『ITIL プラクティス・ガイダンス』は推奨の学習教材ですが、試験中に参照することは禁止されています。
試験時間	60 分間	母国語以外または業務で使用する言語以外の言語で試験を受ける受験者には 25% の延長時間が認められ、制限時間は 75 分間になります。
配点	30 点	30 個の設問があり、1 問につき 1 点です。点数がマイナスになることはありません。
合格点	21 点	合格するためには、21 問(70%)以上正解する必要があります。
思考レベル	ブルームのレベル 2 および 3	「ブルームのレベル」は、設問に答えるために必要な思考のタイプを表します。ブルームのレベル 2 の設問では、受験者は、DITS の概念、手法、原則を理解していることを示す必要があります。ブルームのレベル 3 の設問では、受験者は、DITS の概念、手法、原則を適用できるだけでなく、関連するプラクティスからの情報を適用できることを示す必要があります。
設問のタイプ	標準、否定形、リスト	設問はすべて「多肢選択式」です。 「標準」の設問では、設問に対する答えとして 4 つの選択肢が提示されます。 「否定形」の設問は、文の中核が否定形になっている「標準」の設問です。 「リスト」の設問では、4 つの記述のリストが提示され、その中から正解を 2 つ選択する必要があります。

4.2 MCQ(多肢選択式問題)試験のシラバス

学習成果とケース・スタディに関するアセスメント基準を以下の表に示します。

学習成果	アセスメント基準	ブルーム のレベル	配点
2. デジタル・ディスラプションに対応するために、デジタル戦略を強化する方法を理解している	2.1 次の概念を理解している a) デジタル技術(2.1、2.1.1、2.1.2、2.1.3) b) デジタル・ビジネス(2.3) c) デジタル組織(2.2) d) デジタル化(2.4) e) デジタル・トランスフォーメーション(2.5)	BL2	2
	2.2 次の概念を理解している a) ビジネス戦略とビジネス・モデル(2.7.1、2.8.1) b) デジタルおよび IT の戦略(2.7.2、2.7.3) c) 製品(2.6) d) サービス(2.6)	BL2	2
	2.3 デジタルおよび IT の戦略と ITIL SVS の構成要素(2.10.4を除く2.10と、サブセクションを含む戦略管理プラクティス 2.1と2.4のすべて)の関係について、説明方法を把握している	BL3	2
3. デジタルおよび IT の戦略の概念、サービスバリュー・システム、サービスバリュー・チェーンの間の関係と、それらを活用してバリューを生み出す方法を理解している	3.1 次の観点から環境分析を説明できる a) 外部分析: PESTLE(4.1、4.1.1、4.1.3、4.1.4) b) 内部分析: サービス・マネジメントの4つの側面(4.1、4.1.2、4.1.3、4.1.4)	BL3	1

学習成果	アセスメント基準	ブルーム のレベル	配点
4. デジタル技術が引き起こす環境ディスラプションの中で持続するための、組織によるデジタルおよび IT の戦略の活用方法を理解している	4.1 組織の存続性は、アジリティ(俊敏性)や対障害弾力性があり、無駄がなく、どの程度継続的かつ共創的であるかに左右されることを示せる(8.1.2、8.1.2.2)	BL3	1
	4.3 次の3つのデジタル・ディスラプションレベルについて説明し、比較できる a) エコシステム(3.1、3.1.1) b) 産業/市場(3.1、3.1.2、3.1.3) c) 組織(3.1、3.1.4)	BL3	1
	4.4 特定の市場や産業で、組織が次の要素についてどのような影響を受けているかを示せる a) 顧客/市場の関連性の強度(3.2、3.2.1、3.2.4) b) オペレーショナル・エクセレンスの達成(3.2、3.2.2、3.2.4) c) 内部および外部の焦点(3.2、3.2.3、3.2.4) d) バランスの取れたアプローチ(3.2、3.2.4)	BL3	2

学習成果	アセスメント基準	ブルーム のレベル	配点
5. 顧客/市場の関連性を強め、オペレーショナル・エクセレンスを達成するために、デジタルと情報の技術によって可能になった戦略的アプローチを理解している	5.1 顧客/市場の関連性を強めるために、次のアプローチの適用方法を把握している a) カスタマ・ジャーニー(5.2.1、5.2.1.1) b) オムニチャネル配信とサポート(5.2.1、5.2.1.2) c) 状況に応じた提供とサポート(5.2.1、5.2.1.3) d) 顧客分析(5.2.1、5.2.1.4) e) 顧客フィードバックと360°アプローチ(5.2.1、5.2.1.5、5.2.1.6)	BL3	2
	5.2 サービス・マネジメントの4つの側面でオペレーショナル・エクセレンスを達成する方法を把握している(サブセクションを含む5.2.2)	BL3	2
	5.3 次の観点からデジタルおよびITの戦略の財務面を理解している a) 財務方針(サブセクションを含む5.1.3、5.1.3.3、ポートフォリオ管理プラクティス2.1と2.4、サービス財務管理プラクティス2.1と2.4のすべて) b) ポートフォリオの最適化(サブセクションを含む5.1.3、5.3.1、ポートフォリオ管理プラクティス2.1と2.4、サービス財務管理プラクティス2.1と2.4のすべて) c) プロジェクト、製品、サービスのための資金調達(サブセクションを含む5.1.3、5.1.3.1、ポートフォリオ管理プラクティス2.1と2.4、サービス財務管理プラクティス2.1と2.4のすべて) d) イノベーションと運用のコスト・バランス(サブセクションを含む5.1.3、5.1.3.2、ポートフォリオ管理プラクティス2.1と2.4、サービス財務管理プラクティス2.1と2.4のすべて) e) 課金モデル(サブセクションを含む5.1.3、5.1.3.4、ポートフォリオ管理プラクティス2.1と2.4、サービス財務管理プラクティス2.1と2.4のすべて)	BL3	2

学習成果	アセスメント基準	ブルーム のレベル	配点
6. デジタルおよび IT の戦略のリスクと機会を理解している	6.1 デジタル組織を考慮して、リスク管理の概念を説明できる(サブセクションを含む 11.1、11.2、11.3 とリスク管理プラクティス 2.1、2.4 のすべて)	BL2	1
	6.2 デジタルおよび IT の戦略を考慮して、次の方法を説明できる a) リスクの特定(サブセクションを含む 11.5) b) リスクの評価(サブセクションを含む 11.7、11.8 のすべて)	BL2	1
	6.3 リスク状況の概念について説明方法を把握しており、機会とリスクの間で許容できるバランスを決める方法を示せる(サブセクションを含む 11.10、11.11、11.12 のすべて)	BL3	1
	6.4 主要な要素と技術を含めて、イノベーションの概念を説明できる(サブセクションを含む 10.1、10.2、10.3、10.5、10.6、10.10 のすべて)	BL2	1
	6.5 イノベーションのカルチャを発展させて保持するために、技術を適用する方法を把握している(サブセクションを含む 10.5、10.8、10.9 のすべて)	BL3	1
7. デジタルおよび IT の戦略を定義し、提唱するための手順や技術を理解している	7.1 組織の現状と理想的なポジションの間のずれを分析するために、デジタル準備状況アセスメントの活用方法を把握している(サブセクションを含む 4.3)	BL3	1
	7.2 ビジョンと戦略を定義し、伝える方法を説明できる(サブセクションを含む 3.4、5.1.1、5.1.2 のすべて)	BL2	1
	7.3 デジタルおよび IT の戦略を提唱するために、ビジネス・ケースの使い方を把握している(サブセクションを含む 5.3.2、5.3.3、5.3.4 のすべて)	BL3	1
8. デジタルおよび IT の戦略の導入方法を理解している	8.1 デジタル組織の運用モデルを定義する方法を把握している(サブセクションを含む 2.9、12.2、アーキテクチャ管理プラクティス 2.1 と 2.4、要員およびタレント管理プラクティス 2.1 と 2.4 のすべて)	BL3	1
	8.2 デジタル組織でリーダーに求められる主要なスキルを説明できる(6.2.1 を除く 6.2、サブセクションを含む 9)	BL2	1
	8.4 POM(並列運用モデル)へのアプローチを説明できる(サブセクションを含む 8.2)	BL2	1
	8.5 デジタルおよび IT の戦略の成功を評価する方法について説明できる(サブセクションを含む 7.1、7.2、7.3、7.4 のすべて、サブセクションを含む測定および報告 2.1 と 2.4 のすべて)	BL2	1
	8.6 デジタル・トランスフォーメーション・プログラムでよくある活動を説明できる(サブセクションを含む 6.3.4)	BL2	1

5 ITIL® 4 デジタルおよび IT ストラテジー試験の構成

5.1 試験の管理

制限時間: 60 分間

注: 母国語以外または業務で使用する言語以外の言語で試験を受ける受験者には 25% の時間延長が認められ、制限時間は 75 分間になります。

持ち込み可能な資料: この試験は「持ち込み不可」です。試験資料以外の資料の持ち込みは禁止されています。

前提条件: 受験者は、ITIL 4 ファンデーション試験に合格している必要があります。また、受験者はこのモジュールの認定トレーニング・コースを受講している必要があります(このトレーニングの推奨時間は試験を含め、18 時間です)。そのうち、グループに分かれ作業する場合は実践的課題に 4 時間半から 5 時間を、個人で作業する場合はオンライン課題に 4 時間を費やす必要があります。

5.2 設問のタイプ

30 個の設問はすべて客観テスト問題(OTQ: Objective Test Question)です。4 つの選択肢の中から正解を 1 つ選択してもらいます。間違った選択肢(不正解)は、知識またはスキルが不十分な受験者が選択しがちです。一般的にこれらの選択肢は、試験対象のシラバスの領域に関連するもっともらしい回答となっています。OTQ 設問形式には、「標準」、「リスト」(正解が 2 つ)、および例外的に使用される「否定形」の標準 OTQ があります。

「標準」の OTQ (Objective Test Question: 客観テスト問題) の例:

ベストプラクティスのソースはどれですか？

- a) Q
- b) P
- c) R
- d) S

「リスト」の OTQ の例:

サービス資産管理および構成管理の説明として、正しい記述はどれですか？

1. Q を行うこと
2. P を行うこと
3. R を行うこと
4. S を行うこと

- a) 1 および 2
- b) 2 および 3
- c) 3 および 4
- d) 1 および 4

注: リストのアイテムのうち、2 つが正解です。リスト形式の設問は、否定形になることはありません。

「否定形」の標準 OTQ の例:

定義された価値の領域ではないものはどれですか？

- a) Q
- b) P
- c) R
- d) S

注: 否定形の設問は、学習成果の中に、実行しない事柄または発生すべきではない事柄を把握することが含まれる場合に限り、例外的に使用されます。

5.3 採点

設問数:30

配点:1問につき1点です。30点満点で、
点数がマイナスになることはありません。

合格点:70%以上(21点以上)

5.4 ブルームのレベル別の比重

ブルームのレベル2の設問数は40%に相当する12問です。

ブルームのレベル3の設問数は60%に相当する18問です。

5.5 学習成果別の比重

これらの比重はMCQ試験のみに使用されます。

学習成果	OTQ数	比重の概算
1. デジタルおよびITの戦略に関する決定と対応において、ITILの従うべき原則を活用できる	0	0%
2. デジタル・ディスラプションに対応するために、デジタル戦略を強化する方法を理解している	6	20%
3. デジタルおよびITの戦略の概念、サービスバリュー・システム、サービスバリュー・チェーンの間の関係と、それらを活用してバリューを生み出す方法を理解している	1	3%
4. デジタル技術が引き起こす環境ディスラプションの中で存続するための、組織によるデジタルおよびITの戦略の活用方法を理解している	4	13%
5. 顧客/市場の関連性を強め、オペレーショナル・エクセレンスを達成するために、デジタルと情報の技術によって可能になった戦略的アプローチを理解している	6	20%
6. デジタルおよびITの戦略のリスクと機会を理解している	5	17%
7. デジタルおよびITの戦略を定義し、提唱するための手順や技術を理解している	3	10%
8. デジタルおよびITの戦略の導入方法を理解している	5	17%

6 認定資格

DITS 認定資格は上記の 2 つのアセスメントタイプに基づいています。認定資格を取得するには、多肢選択式試験と実践的課題の両方に合格する必要があります。次の表に示すとおり、実践的課題を適切に達成していることは MCQ 試験の前提です。

シナリオ		次のステップ
MCQ 試験	実践的課題	
合格	合格	シラバスで必要なその他の前提条件が満たされていれば、受験者に DITS 認定資格が発行される
不合格	合格	認定資格を取得するには、試験を再予約して合格する必要がある
合格	不合格	受験者に個別の筆記課題を割り当てる必要がある(認定資格を取得するには実践的課題で合格点をとる必要がある)
不合格	不合格	認定資格を取得するには、トレーニングと試験を繰り返す必要がある

